

戦旗社

東京都新宿区番衆町10の8
コーポハビービルE1号
電話 03 (356) 2 9 8 2
板替東京26110

12月20日

5日、20日発行

352号

編集発行人 鹿島 昂

一部50円

戦旗

帝国主義の腐朽性に抗し 共同反革命を蜂起-内戦へ！ 共産主義者同盟（戦旗派）

11・17-18フォード来日阻止に決起！

羽田現地で機動隊を粉砕！

30余名の不当逮捕にも屈せず闘う

米大統領の史上初めての来日に対し、わが同盟戦旗派と労共闘、筑波共闘の革命的労働者、学生は十・八羽田現地実力闘争の成果を受けつぎ、十七・十八日と連続的に実力決起し、日米両帝国主義の反革命的野望に階級的鉄槌を加えていった。

赤ヘルメットと革命的魂で武装した三〇〇の部隊は、とりわけ十八日の羽田現地において、機動隊・装甲車・放水車を総動員して空前の警戒体制に破防弾圧体制をしき、フォードの来日を強行せんとした権力の包囲網をぶち破り、断固とした実力闘争を展開していったのである。

昨年十月二日の英雄的なソウル大生の決起以降、朴政権と日帝に対して爆発した韓国民衆の怒りを弾圧のエスカレートによってかろうじて抑え延命してきた朴政権、フォードの来日・訪「韓」がそのような朴政権に経済的・軍事的なテコ入れを行い、韓国民衆の闘いの封殺を目指すものであることを、韓国民衆はもろろんのこと日本の労働者人民が見逃すはずはない。

羽田現地へ決起した数千の労働者、学生の闘いは、フォード・田中の反革命「宗主」会談に対する日本労働者人民の返答であり、日帝「寺尾」による十・三一大暴虐への階級的報復の第一歩なのである。われわれはこの革命的闘いの成果を守り抜き、発展させ、「帝国主義の腐朽性に抗し、被抑圧民族、人民と連帯し、帝国主義の共同反革命を蜂起・内戦・世界革命戦争へ！」の総路線の下、日帝打倒へと高めあげるのでなければならぬ。

朴政権の戒厳令体制の下で、着実に輪を拡げつつある韓国民衆の闘いに学び、連帯する国際主義の内実が今ほど問われているときはないのだ。

十七日、韓国民衆の反日帝、反朴の闘いと連帯してフォードの来日を阻止すべく、宮下公園には都内をはじめとして全国各地から続々と戦闘的労働者、学生三千七百名が結集した。

後から後からと参加してくる労働者、学生で公園は埋め尽され、「フォード来日絶対阻止！反革命「宗主」会談粉砕！」の気運がみなぎる中で集会は開始された。司会の発言の後、三里塚反対同盟、関東沖解同（準）等から連帯の挨拶がなされ、フォードの来日、訪韓阻止の闘いの爆発を克ち取ることが確認された。

続いて十一月福岡行動委、全金本山支部等の諸団体から決意表明がなされ、日米「韓」反革命同盟の強化を目指すフォードの来日、訪「韓」を武力で阻止し抜くという各団体の発言は、集會参加者に圧倒的に確認されていた。

各発言者の「フォード来日阻止！」の決意表明に、現地実力闘争の決意を新たにし、熱気あふれる中で集会は続けられていった。

決意表明に続いて実行委員会事務局から十・三一大暴虐に対する特別決議が読み上げられた。「日帝は、内からは部落大衆、労働者人民の共同した狭山闘争を軸とする階級的大高揚に追いつめられ、外からは、南朝鮮人民の不屈の闘いによって破綻に追い込まれ、フォードを迎えてなんとか体制的延命を図らんとしています。私達は

今こそ、十・三一の大暴虐に対する怒りの報復戦を狭山差別裁判糾弾闘争の大爆発として準備すると同時に、一八フォード来日阻止羽田現地実力闘争として貫徹するのでなければなりません。屈辱の一〇・三一を忘れず大反撃に転戦せよ！」の決議は全参加者の共感を呼び起し、一〇・三一の屈辱に対する階級的報復を、フォード来日阻止の闘いの爆発をもって実現することを全参加者は決意したのである。

この戦闘的決意の中、集會宣言が発せられ、全員日比谷までのデモに出発していった。

都心を貫いて前進する隊列は、十八日のフォード来日の現地実力阻止の決意をみなぎらせ、機動隊の弾圧を粉砕して戦闘的デモを貫徹していった。

十八日、反革命盟主フォードの来日を現地羽田で阻止せんとする戦闘的労働者、学生は仲蒲田公園に結集し、実力阻止の決意を打ち固めていった。

「屈辱の十・三一」のくやしさを、恨みを、フォード来日実力阻止の大爆発へと組織すべく決起した二〇〇〇の労働者人民の中に、刻々と迫るフォードの羽田到着を前にして、実力阻止の戦闘的気運がみなぎる中で集会は開始されていった。

前日集會を克ち取り、羽田現地へ結集してきた一一・一七労働者実委の連帯あいさつにつづき、関西、首都圏等各地の団体から、韓国民衆の闘いに学び、連帯すべくフォードの来日を武力で阻止するという戦闘的決意が表明され、参加者の拍手によって確認されていった。

フォードは大統領に就任して、最初の訪問国として日本・「韓」国を選び、現在最も弱い環である朴政権へのテコ入れを露骨に表明していった。韓国民衆の決死の闘いは、そのような米日反革命宗主の朴政権への肩入れを糾弾するものであり、それ故、三十六年間の植民地支配・抑圧という歴史的負債を負う日本人にとって、フォードの来日を阻止し、田中・フォードの反革命「宗主」会談を粉砕することが決定的に問われているのである。

集會参加者は、韓国民衆の血叫びに応え、数時間後に迫ったフォードの来日を何としても阻止し抜く決意を新たにし、圧倒的に集會を克ち取っていった。

日帝「国家権力はこの日、羽田空港の近くには労働者人民を一人も近づけないという、史上空前の警戒体制を敷き、集會場の回りにも数千の機動隊、私服を配置して弾圧してきたが、弾圧が強まれば強まる程一層激しく闘っている韓国民衆と同様に、全参加者の決意は強固になっていった。

集會はその後、プロ青同等の党派発言が行われたが、その中で発言に立った全国労共闘の同志は、「韓国民衆の決起にどのように応えるのが日本人に問われている。社共既成左翼はこれに答えられず、排外主義へと転落している。フォードの来日は反革命「宗主」会談に他ならず、われわれはこれを歴史的負債をかけて阻止し抜く」と鮮明に提起し、圧倒的に確認されていった。

そして集會参加者はいよいよ羽田へ向ってデモに出発していった。

赤ヘル部隊を中心とする三十数人のデモ隊は、集会場を出ると道路一杯にひろがり、旗竿部隊を先頭に重戦車のごとく進撃した。

戦闘的デモを展開する労働者、学生は、「フォード来日阻止！」のシュプレヒコールをどろかせ、みなぎる決意で前進し、機動隊の壁に突撃していった。そして機動隊のジュラルミンの壁を粉砕し、機動隊をバラバラに追い散らし、前進していった。

この進撃が羽田へ向うことを恐れた日帝国家権力は、突然デモ隊に襲いかかってきた。周辺に隠れていた機動隊は、戦闘的デモを繰り広げる隊列に、タテで殴る、蹴るの暴行を加え、さらに不当逮捕しようとした。しかし旗竿部隊が機動隊を蹴散らし、デモ隊は前進していく。すると今度は前より多くの機動隊が襲いかかる。

二〇〇〇の戦闘的労学は、数度に亘る機動隊の襲撃にもひるむことなく、無差別大量逮捕をもともせず、態勢を立て直して戦闘的デモを貫徹していった。

沿道で見守る市民の人々も、「フォード来日阻止！」に拍手で応え、田中・フォードの反革命「宗主」会談への糾弾の声をあげていったのである。

全国の同志友人達！

十一・一七―一八フォード来日阻止の闘いは、日本階級闘争が革命的昂揚へと再突入し、支配階級とのギリギリの攻防がまさに展開されつつある中で闘い取られたものであることを確認しなければならぬ。まさに、六七年十・八羽田現地闘争によって突破口がこじあけられた六〇年代末の日本階級闘争のあの激動期にも匹敵する大昂揚へと階級闘争は発展しつつあるのであり、それ故われわれは、このフォード実力阻止の闘いを受けつぎ、発展させ、七〇年代階級闘争の大爆発へと結実させしめなくてはならないのである。

十一・一八の羽田現地の闘いは、実力闘争として、フォード来日に對する日本労働者人民の相應の闘いである。

それは第一には、日米「韓」反革命同盟と日米安保体制の強化、朴政権に対する反革命的テコ入れと対決するものとしてあったのである。

フォードは米大統領に就任するや、最初の公式訪問国として日本を選んだ。このことは、米帝がいかに日帝との関係を重要視しているかを端的に示すものであり、とりわけ日帝と結合して韓国民衆の抑圧・収奪を続けている朴カイラ

イ政権の維持を至上命令としてい

ることを明らかにしているものである。

帝国主義世界を覆っている悪性インフレ・不況の中で、米帝や日帝の延命の途は唯一、ベトナムを始めとして朝鮮、アジア、中東諸国の民族解放の闘いに敵対し、それらの国々を新植民地的支配の下につなぎとめること以外にはないのである。

それ故フォードは最初に、国内に存在する朴政権批判の声を無視し、なりふりかまわず韓国民衆の反朴・反日帝の闘いへの敵対の策動の強化を目論んだのである。それは、日米安保体制の強化を通じて日帝との反革命的結合をより一層緊密にし、もって朴政権の安定維持をはかろうとする極めて反動的なものである。

朴独裁体制下で一切の自由を奪われ、日帝の苛酷な収奪に呻吟する韓国民衆の反朴・反日帝の正義の闘いを、全く押しつぶし、独裁を維持しようというのだ。これ程反人民的なことが他にあらうか。われわれは、日本の労働者人民として、朝鮮の三十六年間にもわたる侵略・植民地支配の歴史的血債を朝鮮人民に対して負っていることをはっきりとらえ返し、そのような反革命的・反人民的な「宗主」会談粉砕の闘いを闘い抜いたのである。

韓国民衆の血叫びに対しては、口先だけではなく、実際の行動をもって応え連帯していくことが、日本の労働者人民にとって決定的に必要なのである。

フォード実力阻止の闘いは第二には、日帝寺尾による一〇・三一大暴虐に對する、労働者人民の階級的報復の第一歩として闘い抜かれたものである。

無実の石川氏に對し「無期懲役」を下した寺尾の判決は、石川氏のみならず、三百万部落民、労働者大衆に對しかけられた政治的挑戦なのである。それは自らの支配が危機に陥った支配者共の反革命攻撃なのである。それ故われわれには現在、狭山差別裁判を階級闘争総体の中で把え返すことが絶対に必要であり、それ抜きには石川氏の奪還はあり得ないことを確認しなければならない。

従って労働者人民、被抑圧人民は自らを政治的質で武装し、日帝国家権力への大反撃を組織しなければならず、十一・一八フォードの来日阻止、反革命「宗主」会談粉砕の闘いはその第一歩なのである。更に更に反撃を組織し、階級の報復を実現しなければならぬ。

そのような闘いの中で、日本労働者人民は被差別大衆・被抑圧人民との連帯を克ち取っていかねば

ならないのである。アジア人民と

りわけベトナム人民・韓国民衆を先頭とする徹底して革命的な闘いに学び、連帯するものとしてフォードの来日阻止の闘いは闘われ

たのである。

最後に、十一・一八羽田現地の闘いは、狭山九月決戦につづく史上空前と言われた十六万人警戒体制を突破する実力闘争として闘い抜かれたものであることを確認しなければならない。

権力の徹底したボディ・チェック、羽田空港へは一步も近づかせないという警戒体制、まさに自らの階級支配の危機を徹底した暴力的弾圧をもって延命せんとする破防弾圧体制とも言うべき弾圧を、実力で突破して、戦闘的に闘い抜かれたものである。

十・八羽田闘争の革命的な輝しい伝統をうけつぎ、恥かしめることなく断固として闘い抜かれたのである。

われわれは今後更にこのような闘いの質を守り抜き、日米「韓」反革命支配者共に徹底して対決しぬくまで、七〇年代中期階級闘争の大爆発を克ちとっていかねばならない。

韓国民衆・ベトナム人民の闘いはわれわれを導き、その中でわれわれは真の国際主義的連帯を更に更につちかかっていくだろう。そのような人民の闘いの激流の前には、フォードにしろ朴にしろ、その運命は風前の灯である。

労働共闘、蒲田署前で一六万機動隊と激突！



11・21、18来日阻止闘争の成果をうけつぎ

京都

関西労共闘訪「韓」阻止へ決起

全国の戦旗購読者の皆さん、現
代帝国主義の盟主たる米大統領フ
ォードは、首都東京での日本人
の激しい抗議の嵐を逃げ、関西に
やってきました。

勿論関西でも歓迎をうけるはず
がなく、唯空港とホテルをヘリコ
プターで往復するという文字通り
一点と点しか足を踏み下ろすこと
できない来京でした。私達関西の
革命的労働者人民は、そんな警察
の肩越しに晩秋の京都をのぞき見
せんとするフォードに鉄槌を与え、
朝鮮人民の血叫びにうち沈めるべ
く一大集会を京大時計台前で克
取りました。

当日京都は、前日から続いで
る検問に加え、事実上街全体が戒
厳令下におかれ、市内バスさえが
一時停止され乗客が一人一人検問
されるありさまでした。

まさにそのような市民生活すら
通常に管めない程の厳しい弾圧の
中で集会は克ち取られたのでした。

集会は二千余の労働者・市民・
学生の結集をもって開催され、一
八日の来日実力阻止の余韻が残り、
会場はフォード来日弾刻・訪韓実
力阻止の熱気にあふれ、そのショ
プレビコールはフォードの宿舎都
ホテルに絶えまなくどろき続け
たのです。

集会はまず、一八日二百名にも
及ぶ被逮捕者を出しながら現地羽
田での闘いを断固として闘い抜い
た十一月全国実行委から、一八日
の闘争の成果をふまえ、明日二二
日早期に予定されているフォード
の訪韓を断固阻止するよう呼びか

けがなされました。

これに応え本集会の呼びかけ団
体の一つである京大同学会より、
二一・二二連続闘争をもって、機
動隊の厚い壁を突破し、実力で阻
止することが訴えられました。集
会后、都大路をゆるがす巨大なデ
モを組み、フォードの宿舎に後一
キロの地点までせまる円山公園ま
でのデモを最後まで貫徹しました。
全ての皆さん、フォードは市民に
誰一人接することもなく京都の休
日を過ごし、いよいよ二二日、日米
帝の「宗主」会談で決まった朝鮮
人民弾圧の密約をもち、ソウルへ
飛び立とうとしています。

私達は朴・フォードの人民弾圧
反革命体制強化のための会談を絶
対に許さず、二二日早朝伊丹空港
に向け進撃を開始しなければなら
ません。

朝鮮人民の血叫びに応え、フォ
ードの訪韓を実力阻止する覚悟で
す。

11・15

フォード来日

阻止の火柱上がる

関西

フォード来日を三日後にひかえ

た一五日、大阪扇町公園で「フォ
ード来日、訪韓阻止全関西集会」
が、六百余名の戦闘的労学の結集
のもとに闘いとられた。

集会は呼びかけ団体である三里
塚闘争と連帯する会、七・二四共
闘、部落解放同盟からの、次のよ

うな基調をもって開始された。

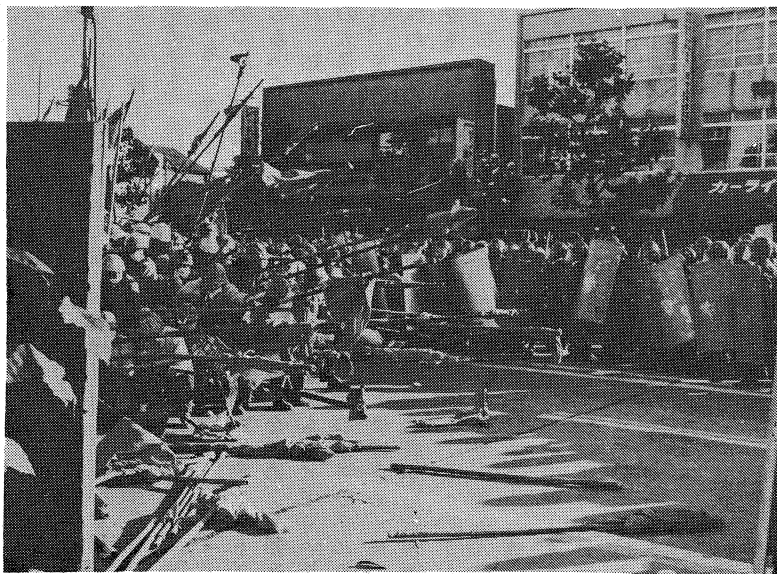
フォード来日訪「韓」は第一に
アジアにおける反革命体制の強化
が目的であり、第二に現在危機的
な状況にある日帝政治支配へのテ
コ入れであり、狭山差別裁判をは
じめとする日帝支配者どもの人民
弾圧への承認であること、又特に
第三に日米両帝国主義者にとりそ
の「新植民地」でもある「韓」国
朴反革命軍事政権の維持強化が目
論まれていること等である。

とりわけ部落解放同盟からは十
月三十一日の日帝寺尾による石川氏
への反革命差別判決、「無期」有
罪判決に対し、高松地裁闘争の故
事にならぬ納税、義務教育の拒否
をもって完全無罪獲得にむけ闘い
をすすめることが明らかにされ、
集会参加者全員の万雷の拍手をも
って確認された。

更に連帯の挨拶にたった韓青同
の代表からは、まず朴暗殺未遂事
件の名を借りた韓青同をはじめと
する在日朝鮮人への弾圧に断固闘
う決意表明がなされ、又今日日本で
改悪されようとしている刑法の見
本（草案）は、一語一句までが朴
軍事政権の憲法とそっくりである
ことが暴露され、韓日両国人民は
互いに連帯し、ますます反革命的
結合を深めている両国支配者を打



羽田へ出撃する戦闘的労学2,000



ジュラルミンの壁を突破する実力闘争を展開

朝鮮人民への歴史的負債をうけとめつつ

11・12西部地区集会を克ち取る

フォード来日を目前に控えた十一月二日、『日韓連帯、フォード来日訪「韓」阻止』西部地区集会』が、首都圏西部地区の戦闘的労学六十名余の結集の下、新橋区民会館にて圧倒的に克ちとられた。

馬山輸出自由地域においては、その九十%が日本資本企業であり、用地用水労働力供給面での最大限の便宜を供与され、無関税、五年間一切の納税免除の上、更に労働者の基本的権利たる労働争議権が剝奪され極度に劣悪な労働環境下の低賃金構造が銃剣により維持され、全韓国の「馬山化」は更に拡大の方向にある。そしてそれは韓国民族資本の存立をも一切認めないほど過酷なものであり、日帝は圧力とリベロト買収により南北分断固定化打破革命的統一の闘いの大昂揚の前に、七二年七月、朴は「南北共同声明」にベテラン的合意はしたもののだがしかし民族解放の奔流は更に大進撃を開始し、これに恐怖した朴は「十月維新体制」により、自らを民主主義の痕跡すら奪い去る独裁者へと必然化せしめた。

この巨大な全ゆる権限を持った朴反革命カイルイ政権は「フアンシヨ」体制をフアンシヨ的に運用し、その運用は朴の恣意であり、生活全般まで亘っており、韓国民衆三千五百万人中一人もその法眼にひっかからない者はない」ほどのフアンシヨ体制なのである。

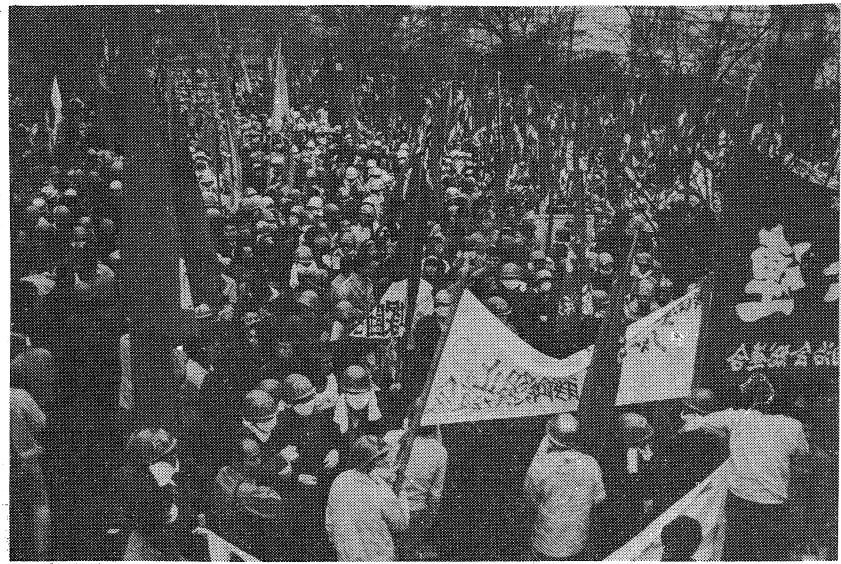
そして「その朴反革命カイルイ政権に対して日本の財界人は首までつかっている」として、日帝資本と朴反革命カイルイ政権とのど

す黒い政治経済軍事的ユ着が暴き出された。

その九十年が日本資本企業であり、用地用水労働力供給面での最大限の便宜を供与され、無関税、五年間一切の納税免除の上、更に労働者の基本的権利たる労働争議権が剝奪され極度に劣悪な労働環境下の低賃金構造が銃剣により維持され、全韓国の「馬山化」は更に拡大の方向にある。そしてそれは韓国民族資本の存立をも一切認めないほど過酷なものであり、日帝は圧力とリベロト買収によりカイルイ政権を動かし、韓国労働者人民から徹底した収奪と搾取を行っている事実が憎しみをこめて明らかにされた。

又、韓国の失業者は推計二百数十万人（公表でさえ六十万人）であり、ソウルの小学生の三分の一は昼食が食べられず、そのうち三分の二は朝食も食べられない惨状である事。そのような中で朴反革命カイルイ政権と韓国民衆との対峙関係は、単に政治的対立のみならず、生活総体において敵対し立っている事が明らかにされた。

そして最後に、「韓国民衆が朴を、日本人民が日本帝国主義を倒す中で、お互いがお互いの敵を倒す中で、真に私達の連帯があり得る」という、これまでにして未だ大きくそのくびきの下にある日



1.7日宮下公園に3700名の労学を結集して打ち抜かれた「フォード」全国集会

本階級闘争の排外主義への屈服という事に対しての鋭い指摘がなされた。

このような韓民族の身を切るような特別報告に続いて「徐勝君らの釈放を要求する青年会議」、

「アムネスティ日本支部架橋グループ」よりの連帯あいさつ、更に企業の営利合理化攻撃の嵐の中で既成労働運動指導部「社共の排外主義への屈服に抗し、革命的にフォード来日訪「韓」を断固阻止すべく決起した岩崎電機通信、慶応病院、全関東単一労働組合の各職場労働者からの戦闘的な決意表明、及び法政大学、武蔵ヶ丘高校の諸君からの強固な決意表明がなされ、会場参加者全員のフォード来日訪「韓」絶対力阻止の強固な意志統一を克ちとっていきま

また、この十一月・一二西部集会においては、今十一月フォード来日訪「韓」が、決って公表されているニクソン辞任の説明や一般的親善などではなく、全世界的民族解放闘争の昂揚等によって動揺する戦後世界体制の中において、特に米帝の后退が著しいアジアにおいて反革命支配の再編が企図されている事は明白な事であり、とりわけ重大化しているのは「韓」

国であり、死の苦悶に喘ぐ朴反革命カイルイ政権をいかにして延命させていくのかその為の日米「韓」反革命「宗主」会談に他ならない事が、一点の曇りもなく鮮明にされていったのです。

そして同時にこの十一月・一二集会は韓民族からも鋭く指摘された「日韓連帯の内実」を、私たち日本労働者人民はどのように主体的にうけとめていくのかという事の意味においても決定的に重大な集会であったらうと思えます。

まさに、私たちは社共既成労働運動指導部の雪崩を打つ排外主義への屈服こそが、日米「韓」の支配者を左から支えてきていたのだというこの冷厳な歴史の事実を痛恨の念を以てはつきりと思っておくすならば、もう決して二度と再び絶対に被抑圧民族、人民、なかんずくアジアの民衆に銃口をむけないという日本労働者人民の立場を真に堅持しぬ銃口を自国帝国主義「日本帝国主義」を打倒していくために、日帝にむけていかなければならない私たちの任務は、より鮮明になってきたらうと思えます。

朝鮮人民、韓国民衆の血叫びにこたえ日米「韓」反革命支配者会談を絶対に許すな！

11・10埼玉で石川氏の御両親をむかえ 10・31大暴虐糾弾集会を貫徹！

十一月十日、日帝寺尾の十・三一大暴虐糾弾／石川氏完全奪還 フォード来日・訪「韓」阻止へ向けた集会が埼玉労働共闘・糾弾共闘の共催によって狭山現地で克ち取られた事を報告する。全国の同諸君、全ての労働者、学生、高校生諸君！ 集会の口火は石川氏の御両親の連帯のあいさつによって切っておとされ、結集した労学は「日帝寺尾の大暴虐は絶対に許す事はできない、帝国主義の暴虐は必ずやわれわれプロレタリアの階級的鉄槌をもって打ち砕いてやる」と決意し、日帝寺尾の大暴虐を許してしまつたわれわれの不充分性を根底から突き出し、何よりもこの集会に結集し、最先頭で闘い抜いている、石川氏の御両親の怒り、くやしさを我がものにし、獄中の石川氏、三百万部落大衆と固く結合して一大報復戦を闘い抜く意志統一を克ち取った。

続いて基調報告に立った我が同志の、「十・三一 日帝寺尾の大暴虐は成長する革命の対極に生み出された支配階級の絶望的な反革命であり、戦闘的部落大衆・労働者人民は一片の幻想も敵支配階級に

対して持つことは許されない、そしてこの怒りを日帝打倒をもつてはたすべく更なる進撃を！」という提起に対し圧倒的な異議ナシとの拍手をもって応え集会場にみなぎる怒りは増々革命への熱い決意に燃えていった。

更に「現在生命を賭して民族の統一と自由を求め、言語を絶する弾圧体制にも屈せず闘い抜いている韓国民衆の血叫びをわれわれはしっかりと受けとめ、危機にあえぎ絶望のどん底から日米両帝国主義者の巻返し、朴へのテコ入、更なるアジア人民・朝鮮人民への新たな攻撃を許さず闘い抜かなければならない。その中で米帝フォードの訪日・訪「韓」・日米「韓」反革命会談を粉砕しなければならぬ。十一月・一七、一八を血債・猛省をかけ実力斗争として闘い抜く、そして支配階級への報復の第一弾をぶち込んでやろう」との鋭い提起がなされた。

今やわれわれ労働者人民の任務は鮮明である、獄中で無念の中にも雄々しく不屈の闘いを続けている石川氏、生命を賭して朴の反革命弾圧と闘い抜いている韓国民衆、

人民は一片の幻想も敵支配階級に

全ての抑圧され、虐げられた人 十一・一〇の集会は、日帝一命的精神をわれわれが更に打ち固
 民の怒りを今こそ我がものにし、 寺尾の大暴虐を許さず、韓国民衆 め、斗い抜いていく事を最後に確
 峰起一プロ独勝利の大道を突撃し、 の血叫びに応え切り、プロレタリ 認、圧倒的に勝利的に斗い抜かれ
 抜く事、これである。 ア国際主義と組織された暴力の革 ていった。

権力の弾圧に対する抗議とカンパの要請

全国の労働者・学生・市民のみならず！
 私たち十一月フォード来日・訪韓阻止全国実行委員会は、南朝鮮人民の決起と連帯し、新たな帝国主義の反革命的再
 編のため来日。訪韓しようとしたフォードを阻止すべく、十七日から二十二日に至る連続した大衆的な闘いを戦闘的に
 闘い抜いてきました。私たちは、十七日、宮下公園に全国からの三千七百名の戦闘的労働者。人民を結集し、さらに十
 八日、中蒲田公園に二千名を結集し、フォード来日を阻止すべく羽田現地闘争を担い抜きました。これに対して国家権
 力機動隊は、革命的左翼・戦闘的労働者。人民の結集と溢れる熱気に恐怖し、十八日羽田現地闘争において、二百三
 十名にも及ぶ大量拘束、百八十六名の大量不当逮捕を行いました。又、デモ隊に対するテロ・リンチによって百数十
 名の重軽傷者が出されたのであります。さらに、二十一日京都における闘い、とりわけ二十二日伊丹現地闘争に対して
 は、デモ隊を徹底的に分断し、加えて徹底的なテロ・リンチをデモ隊に加えてきたのであります。今や国家権力は、南
 朝鮮人民の闘いに真に連帯し、あくまでもプロレタリア国際主義の旗をかかげて、社共革新勢力の排外主義を打ち破
 り、自民党政府の打倒を目標とするわが全国実行委員会の隊列の登場と成長を恐れ、その破壊に奔走しているのは明ら
 かであります。私たちはこのような予防弾圧と破壊策動を断固として許すことはできません。ここに私たちは、はっき
 りと抗議の意志を表明するものであります。

現在多くの同志が国家権力によって獄につながれています。私たちは獄中で闘い抜いている多くの同志の一日も
 早い奪還を全力をあげて勝ち取らなければなりません。大量拘束・大量逮捕に伴う差し入れ、弁護士接見のための
 費用、重軽傷者の入院費用、今後予想される裁判闘争費用等、合わせて約三百万円が現在必要となっております。
 共に闘い抜いた同志の獄中からの奪還のため、又、国家権力の不当な弾圧をはねのけ、刑法改悪に示される弾圧体制
 の強化を粉碎するため、一口三千円のカンパを是非お願い致します。

一九七四年十一月二十五日
 十一月フォード来日・訪韓阻止全国実行委員会
 連絡先 東京都千代田区神田神保町一の一九 成田ビル 三里塚闘争に連帯する会 気付
 電話 〇三 一 二九五 一三八四七

12・15 労共闘政治集会招請状

全国の戦闘的労働者の皆さん！
 無実の部落青年石川一雄氏に下された十・
 三一大暴虐に対し、今や戦闘的部落大衆、労働者人民の間には、日帝寺尾を決して許さ
 ず、持てるすべての力をふりしほって打倒し
 抜くという戦闘精神がかつてない程高まっ
 ています。心ある労働者人民、被抑圧人民は、
 あの「屈辱の十・三二」を胸にきざみこみ、そ
 のくやしさを、無念を日帝打倒の政治的反撃へ
 と組織して闘っています。
 十一・一八フォードの来日に際しては、数
 千の労働者、学生が羽田現地へ総結集し、韓
 国民衆の血叫びにえんと断固たる実力
 阻止の闘いを繰りひろげました。
 そしてまた、九・一六戦闘の革命的伝統を
 堅持している三里塚の現地では、万人に誇れ

る闘いを創り上げようとして反対同盟を軸と
 した粘り強い空港粉砕の闘いが十・十全国集
 会の成功をステップに着実な前進を克ち取っ
 ています。
 激動する七〇年代において、この狭山、朝
 鮮、三里塚の三大課題は、日本階級闘争の中
 で確固不動の位置を占め、革命主体にとり戦
 略的に据え切ることをせまっています。
 革命的左翼にとり、この三大課題を個別闘
 争の枠の中から闘うことはもはや許されず、
 戦闘的総路線の下に断固とした闘いを展開し
 ていかねばならないのです。
 わが全国労共闘は、この間一貫して、狭山、
 朝鮮、三里塚の三大課題を「帝国主義の腐朽
 性に抗し、被抑圧民族人民と連帯し、帝国主
 義の共同反革命を峰起・内戦・世界革命戦争

へ」の戦略的総路線の中に位置づけ、被抑
 圧人民との連帯を血債の思想、猛省精神とし
 て克ち取ってきました。
 その闘いは、被抑圧民族・人民の闘いを自
 らの闘いのバネに利用し、抑圧的立場を固定
 せんとする差別意識にどっぴりとつかった純
 プロ主義とはきっぱりと訣別した、被抑圧人
 民と真に連帯しうる闘いをめざしたものです。
 本工労働者、抑圧者の立場からしか見るこ
 との出来ない日共、カクマルの純プロ主義の
 反革命性は、狭山九月決戦の大爆発の中で全
 人民の前に完膚なきまでに明らかとなって
 います。
 まさに、部落大衆、在日アジア人等被抑圧人
 民と連帯して闘うために、わが全国労共闘は
 純プロ主義を排し、革命的総路線の下に血債
 をかけて闘い抜く決意です。
 すべての労働者の皆さんが一・二・一五労共
 闘政治集会に結集し、決意をうち固め、共に
 闘われんことを強く訴えます。

☆10・31 大暴虐糾弾！ ☆フォード来日・訪「韓」弾劾！
 ☆三里塚岩山大鉄塔死守！
12・15 労共闘政治集会

基調報告 笠置華一郎 場所 代々木区民会館
 連帯挨拶 三里塚芝山連合空港反対同盟 日時 十二月十五日
 石川氏アピール 午後六時

足立商會派による反革命暴挙

11・18闘争への背後襲撃を糾弾せよ!

全国の労働者・学生・高校生・市民諸君！
我々戦旗派と戦闘的労働者人民は、今秋期最大の政治的焦点として存在したフォード来日訪「韓」に対して総力を挙げて闘いぬき、十・三一大暴虐を頂点とする敵権力の残虐な攻勢に反撃を加え、革命的な韓国国民衆との真の連帯を構築する大きな前進を勝ちとったことを誇りをもって報告したい。

未曾有の破局的危機に喘ぐ帝国主義国家権力は十一・一八闘争に対しても暴圧に訴え、数百の逮捕と、それに倍する暴行傷害という弾圧を加えたが、そんなものは敵の動揺の表現でしかなく、部落大衆・韓国国民衆・一切の被抑圧人民との連帯をめぐし、しかも幾多の試練をへて漸く階級闘争の再度の昂揚を自ら切拓きつつある日本革命的左翼の闘いによって、何ら恐るるに足るものではない。闘いの決意を更に打ち固め、勝利への確信を深めさせる媒介でしかないのだ。

だが革命的左翼を自称する諸党派の中でも被抑圧民族・人民に対する日本労働者人民の責務を理解せず、現下の階級闘争の鉄火の試練から逃亡し、逆に断固として闘う翼への反革命的敵対に終始する部分が輩出している事態こそ一刻として放置されてはならない。

カクマルに加え、かの純プロ主義、日和見主義、足立商會派が、十一・一八羽田現地に於て演じた反革命的犯罪は徹底糾弾されなくてはならない。数十名の逮捕者とはほぼ同数の負傷者を出しながら決然として闘いぬいたわが部隊に対して背後襲撃と個人テロを加える等といった行為は、まさしく反革命そのものだからである。

十一月一日、我々戦旗派を先頭とする全国実行委の闘う労働者・学生・高校生は、仲蒲田公園に於て、何としてもフォード来日を実力阻止する決意を意志統一し、断固たる闘いを展開した。わが先頭部隊の圧倒的な竹ザオ戦は羽田方面と蒲田警察署前に布陣した機動隊を撃破し、更に赤ヘル本隊を始めとする大衆的実力闘争は敵を押しまくったのである。闘いの奔流が十六万警備体制の第一関門を突破したこの瞬間、敵権力は凶暴な牙をむいた。「全員検挙」の号令が下され、官犬どもは警棒と楯で無差別暴行をふるい、戦闘的労働者人民の頭を割り、手足を折り、失神した者、重傷者の区別もなく、三百数十名を拘引し、うち二百名を逮捕するといふ、文字通り破防法弾圧体制を發動させたのである。

だがどのように敵の嵐が吹荒れようとも、石川一雄氏の闘魂に学び、韓国国民衆と心底から連帯してきた我々は揺ぎはしない。十・八羽田闘争以来の革命的な武装闘争、沖繩返還粉砕―自衛隊派兵阻止五・一三戦闘等の決起そして暴虐にみちた弾圧の中で鍛え上げられ

てきた戦旗派は挫けはしない。全国実行委の諸党派・労働者人民と共に、我々はこの日の闘争を最後まで革命的に貫徹・牽引しぬいたのであった。

解散地点の大師橋下緑地には統一実行委の他に日本学生戦線等も集結した。ここに於て問われていたのは、戦列を整備し反撃を準備することである。戦旗派をはじめ統一実行委の隊列は半分を権力に奪われ、残りも過半が傷ついていたが意気天をつくものがあつた。この時である。八・二五共闘系と共に足立商會派がこの解散地点にやってきた。この二十余名と減少の一途をたどっている徒党は、わが戦旗派の部隊を見るや、急に身構え、「〇〇一派センマツ」を呼号し、通りすぎる瞬間に、もつていたピンと大石を我々の背後に投げつけたのである。機動隊の面前でのこの卑劣な襲撃は、十一・一八闘争を闘った全ての戦闘的労働者人民の衆人皆見の中でなされた。

そしてこのうち人の頭どころもある大石はケガ人の治療にあたってかかみこんでいたO君の背中へ直撃され、ためにO君は背骨挫傷の重傷を負い、入院加療中である。

足立派による十一・一八反革命的襲撃はこれだけではない。この直後、大鳥居駅に向つた部隊のうちで、戦旗派、インター、解放派等全国実行委系の隊列が権力によって不当に長時間の阻止、検問を加えられる中で、簡単に通された足立派が、大鳥居駅構内に於て、解散集會に合流せんと努めていた、わが同志YとNを襲撃したのである。この同志たちは、仲蒲田公園付近の猛弾圧によって検挙されつづも、ケガ故に釈放をかちとり、あるいは蒲田署の魔手を脱走してきたのであった。

ところがである。足立派の中でも飛切り劣悪なアベ(マ)が先頭に立ち、「血債・猛省とは何だノ」と言つて突然わが同志たちに殴る蹴るの暴行を加えたのである。とくに頰に負傷したN君の傷口を狙つて大ケガさせたアベ(カ)、ミツイ、ミスギらの蛮行を許すことは絶対にできない。闘いに傷つきながら最後まで闘い続けるべく解散地向い、権力に阻止されていた重傷の同志たちを、官許デモのあげくチンタラひきあげる輩が狙い撃ちにしたのである。これが反革命テロでなくて、背後襲撃でなくて何だろうか。

これはあの反革命ハイエナ集団、カクマルと全く同じ所業である。カクマルの反革命への転落はその理論体系の帰結だけによるのではない。その主観主義・排外主義ゆえに闘う者への連帯を忘却し、否定し、生きんがためにも闘う被差別大衆に学ばずそれを蔑視することから一切の歯止めをなくした結果なのである。六九年秋期安保決戦の直後に、「中間諸難派解体の絶好のチャンス」を呼号したカ

クマル、そしてわが十一・一八闘争の闘いぬいて傷ついた部隊・戦士への背後襲撃、これは何ら異なるところは無い。どちらも闘いに起つた心ある人々を怒らせ、敵権力を喜ばせること、この上ない憎むべき行為である。

もとより足立商會派の反革命的襲撃は今に始まったことではない。昨年十・二一集會に於ける同志Yへの暴行、十一・二七集會に於ける同志Iへのアベらの暴行、今年に入つては、東京地裁で権力監視下での襲撃が相ついでいる。三月、同志Kに対するミツイら数名の殴る蹴るの暴行。これはK君が「かつてニシダをスパイした」なる全く根も葉もなく、かつ、幼児じみた口実による。四月には同志Iに対するアベ(マ)の暴行。七月には同じくアベ(マ)による同志Tへの暴行。この行為は戦旗派担当公安横田の面前でなされ、横田を歓喜させるといふ呆れ果てた利敵行為であった。

だが我々は階級の報復の権利を一貫して留保してきた。足立派が権力に身売りしない限り、矛盾の処理も人民の納得する方法で処理されなくてはならないからだ。だが十一・一八の反革命的襲撃は、「人民内部の矛盾」のワクをこえるものへと、彼らの腐敗利敵行為が転化しつづつあることを示した。それほど魂の根底まで敵権力に売渡した者でなくては成すことが不可能な許し難い襲撃として十一・一八の暴挙はあったのである。

足立派の十一・一八闘争放棄を弾劾する。

足立派の反革命集団第二カクマルへの転落の徴候は、この決定的に重大なフォード来日訪「韓」闘争を一切闘わずに平和デモで終始し、解散地点でのわが同盟への敵対のみを目的化するという問題の立て方にもはつきりと現れている。

十一・一八フォード来日阻止闘争を、我々は第一に日米「韓」共同反革命の再編強化に對する闘いとして闘いぬいた。第三世界民族解放闘争の爆発を前に、安保・NATO―I MFGATT体制を基軸とする戦後世界体制が崩壊の一途をたどる中で、七一年ニクソン「グアムドクトリン」に基づく、「戦闘のアジア人化」戦略が、①七二年沖繩返還―自衛隊派兵、②自衛隊の強化―日米「韓」共同軍事行動、③朴反革命カライイ政権援助の米↓日肩代り、等を内実とする五・一五侵略反革命体制を中心環として現実化されつつあることに對し、六〇年安保闘争日韓―ベトナム―七〇年安保闘争、七二年沖繩返還粉砕闘争の革命的伝統を継承して我々は闘いきた。

第二に我々は韓国国民衆との真の連帯をめざして闘いぬいた。フォード訪「韓」は、グア

ム・ドクトリンの一方の環としてある「反革命軍事独裁政権の育成」策が、韓国民衆の決死戦闘によって、南ベトナムのチーと共に、朴政権に於ても風前の灯と化している状況へのテコ入れとして存在したし、そのことはそのまま、自由を希求し、民族解放に起った民衆への敵対を意味していた。米「韓」共同声明は、両国CIAによる茶番劇「三十八度線地下トンネルの戦闘」デッチ上げを背景として、①「北の脅威」に勝ちぬく安定政権の必要性強調、②「韓」国軍近代化の促進、③在「韓」米軍の維持、④日米による経済援助強化をうたいあげ、逆に、政治犯釈放問題等は一切黙殺したのであった。日米両帝国主義による朴テコ入れ、経済侵略こそが韓国民衆抑圧の元凶であることをハッキリと見すえ、日帝の朝鮮アジア侵略の歴史を日本労働者人民として猛省し、日帝の侵略反革命全韓国「馬山」化を阻止する闘いへと我々は起ったのである。

第三に我々は破局的危機にひんし、それ故に一〇・三一一大暴虐や、在日朝鮮人弾圧等、被差別大衆への圧迫を強め、人民を分断支配せんとする日帝の腐朽性を糾弾し、日本プロレタリアート人民の階級的責務としての一だ反撃の一步として闘った。帝国主義の残虐な暴圧を許さず、被抑圧民族・被差別大衆のためにこそ起たねばならない。危機に喘ぐ敵をトコトン追いつめるために、「屈辱の十・三一」へすぐに逆襲せねばならなかった。被差別大衆への理不尽な抑圧及び日米両帝国主義の朝鮮アジア人民への敵対は寸分といえど許さぬ思想性を練磨しない限り、革命的左翼といえども帝国主義的労働者の病い純プロレタリアに冒されてしまうからだ。

第四に我々は、七〇年安保以降の停滞をのりこえ、ようやく開始した日本階級闘争の昂揚に際し、これをいかにして日帝打倒一プロ独の勝利へと導くのか、その方向を体現すべく、全党全人民の団結を固め、労学高校生うって一丸となって、総路線の下に闘いぬいた。「帝国主義の腐朽性に抗し、共同反革命を蜂起・内戦へ」転化する任務の現在の環として武装闘争一実力闘争の伝統を復権し、被抑圧民族・被差別大衆への血債を償還しぬくべく、確固として闘いぬいたのだ。

他方の足立派は、かくも決定的な十一月八日をどう過したのか。沖共闘を破壊し、何の総括もなく、蜂火派に拾われて八・二五共闘に参加した足立派は、そこでも「くだらないゲバの繰返しに明けくれた十・二一集会」をマル青間に笑われただけでなく、最右翼として登場した。つまり、八・二五共闘内でも、怒濤派は十一・一八闘争を実力闘争として闘い、逮捕者を出しつつも突出を試みたのに対し、足立派は、怒濤派を完全に孤立させ、平和デモに終始するという反動的対応をやらかしたのである。あけくの果てに敵権力に向けられるべき暴力が、最も果敢に敵と闘ったわが戦旗派にむけられたのである。

同志諸君！ 戦旗購読者諸君！

こんな事が許せるだろうか！ こんな事は日本新左翼誕生以来二十年の歴史上、カクマル以外には一党派、一回として行ってはいないのだ。

半年に一回、思い出したように出される、足立派ニセ「戦旗」のどのページにも、帝国主義支配体制の危機も、革命的昂揚への胎動

も、被抑圧民族・被差別大衆への真の連帯追求の姿勢も、カケラすらうかがうことはできない。ニセ「戦旗」は、「今日の課題を戦旗派の打倒」と「組合への組織戦術的介入」にしぼり、筋違いの怨嗟と根柢のない個人攻撃で埋めている。そんな排外主義宣伝によって作られる運動が反革命化するのは当然である。人民から学ぶことを拒絶し、人民のために闘うことを嘲笑する徒輩が、人民から遊離し、私私晴らしを生きた階級闘争に置換えてしまったのも必然なのである。

骨髄まで腐敗しきったニシダらの排外主義宣伝から目ざめ、足立派の諸君は初心に帰るべきである。自己が階級闘争に果たしている役割を冷静に見るべきである。諸君一人ずつの古傷をつついては「それは戦旗派のせいである」と猫なで声を出すニシダと側近どもの呪縛は、韓国民衆の不幸をすべて「北のせい」にすりかえる朴一派と変りはない。足立派諸君の不幸は現在の立脚地点で権力と闘うこと、腐敗した足立派を革命し正道に戻すこと以外には克服されないのだ。沖繩人民・アジア人民との連帯をめざして死力を尽して闘った輝やかしい五・一三戦闘の経歴をもつ諸君よ、初心に帰り給え。

今や階級闘争の再昂揚の鉄火は一切の逡巡を許さない地平を照らしだしている。革命的左翼もまた全党派全活動家が歴史のフルイにかけられている。カクマルは反革命へと純化し、足立派もそれに追従している。我々はそんな生き方が、わが同盟への全く反革命的な襲撃として続く限り、許容にも限度がある。革命的報復の権利を留保しつつ、真摯な自己批判を足立派に要求するものである。

すでに十一・一八以後のわが同盟よりする正当な追及に対し、足立派は、「ぼくは現場に居なかった」等と逃げるか、「そんなことをするのは蜂火ではないか」等と、共闘の相手を全く信じない野合ぶりをさらけ出し、卑劣にも、そして十一・一八を仲蒲田等から大師橋緑地へと闘った全潮流衆知の事実を浅薄にも隠ぺいせんとする有様である。

足立派よ、そんなことで逃げられると思うな。我々の怒りは革命的で正義の怒りなのだ。自己の切開を行わねば、反革命的阻害物として、前進する人民の革命的暴力の鉄槌が下されるまでなのだ。十一・一八の背後襲撃を我々は絶対に許さない。そして反革命的暴言も許さない。足立派よ、「血債・猛省とは何だ」とは何だ！ 帝国主義の侵略反革命、差別分断を支えてしまった日本労働者人民の責任にかけて闘う思想性を否定するから君達は、韓国民衆との連帯を忘れ、連帯を求めて闘う翼を襲撃する反革命徒党に成下ってしまったのだ。血債を認めない民同どもに迎合するあまり、自分まで民同化してしまったのだ。全

世界被抑圧民族の最大の敵、米帝大統領の来日をすら闘えず、あるうことか日本労働者人民の先頭に立って闘った者、闘いによって傷ついた戦士を襲撃して、しかも恥を知らぬ許し難い存在へと墮落してしまったのだ。

同志諸君！ 戦旗購読者諸君！

我々はこうして闘いの阻害物を断じて許さず、過去帳に叩きこみ、限りない前進を続ける覚悟である。

12・15 労共闘政治集会を貫徹し

七十年代中期階級闘争の一大水路を切り拓け！

全国の革命的同志諸君！労働者人民諸君！

わが戦旗派と全国労共闘は、十一月十七日から二十二日迄フォード来日・訪「韓」阻止六日間闘争を、韓国国民衆の不屈の闘いに応え、血債をかけ、全国実行委の最先頭に立って文字通り死力を尽して闘い抜いた。韓国では「政治犯即時釈放」「維新独裁体制打破」「フォード訪韓阻止」を掲げた学生、キリスト者、言論人、政治犯家族等が連日わたって決起、朴をゆるがし、日本でも百万の労働者人民がフォード来日・訪「韓」阻止闘争に決起した。なかならず革命的左翼は六日間の激闘につく激闘を闘い抜き、六七年十・八羽田闘争、七二年五・一三神田遊撃戦の革命的伝統を復権したのである。七〇年代中期階級闘争の大高揚のその最先端にプロレタリア国際主義の真紅の旗を翻えし、朝鮮人民、アジア人民と再びがっちりと手を結んだのだ。

日米両帝国主義者は安保共同反革命体制をニクソン・グアムドクトリンによって再編強化しようと思図したにもかかわらず、ベトナム、韓国国民衆を先頭とするアジア人民の反日米帝、反革命カイライ政権打倒闘争によって破綻につく破綻を強いられて来たが故に、フォード来日・訪「韓」を機に日米安保共同反革命体制を補強し、朴反革命カイライ政権にテコ入れすることを自らの死括をかけた課題としていたのである。だからこそ日本では十六万人の警察機動隊を動員し未曾有の弾圧体制をしき、「韓」国でも「甲号非常戒厳令」をもって反革命の凶暴な牙をむき出しにして絶望的な攻撃をかけてきたのだ。

だがしかしもはや歴史の歯車を逆転させることはできない。韓国国民衆・アジア人民とともに帝国主義国日本の労働者人民も革命的プロレタリアートを先頭に共同して日米「韓」反革命支配者共に対して立ち上った。自らの延命をかけてフォード来日させながら田中は打倒されたではないか。朴の命脈も既につききている。フォードも

**狭山・朝鮮・三里塚を軸に血債・猛省精神を
つちかい、階級的大高揚を切り開け！**

**日帝寺尾の十・三一大暴虐を
決死糾弾し、石川一雄氏を即時
奪還せよ**

十月三十一日、日帝寺尾は無実の部落青年石川氏に無期判決を下すという大暴虐を行った。これは十二年前、部落民であるというただそれだけの理由で「善枝ちゃん殺し」の犯人にデッチ上げた自らの差別権力犯罪を隠蔽し、十二年間もの石川氏不当監禁、差別裁判強行の居直りを策すまさしく反革命的、差別的、暗黒判決であった。石川氏にかけられたかかる攻撃は、石川氏が部落民であるというところをその根拠としており、それはとりもなおさず三百万部落大衆に対する差別判決、差別・抑圧攻撃なのである。同時に狭山九・十月決戦を頂点として、延べ二十万以上の人民が決起し、とりわけ圧倒的な労働者人民が

全世界人民の怒りの決起の前に必ずや打倒されるであろう。

戦旗派と全国労共闘はこの一年間、純プロ主義の克服を目指し、徹頭徹尾被抑圧民族・人民と連帯し、その闘いの利害を自らの課題とするまさに革命的労働運動をもって闘い抜いてきた。狭山闘争においては「糾弾・奪還・打倒」の旗の下、三百万部落大衆の完全解放を目指し、三里塚闘争においては「空港粉砕、鉄塔死守」を旗印に闘う農民の立場に立ち、朝鮮連帯闘争では、朝鮮人民の「反朴、反日」闘争を断乎支持しつつ闘い、その中で、被抑圧民族・人民への差別主義、排外主義的思想を根底的に切開き、血債、猛省精神をつちかってきたのである。

われわれは、この一年間の闘いの中で克ち取った政治的、思想的組織的成果の一切をかけて十一月フォード来日・訪「韓」阻止六日間闘争を闘い切った。日本労働者人民、被差別部落大衆、在日朝鮮人民、沖縄人民、韓国国民衆、アジア人民の闘いの前進をおし止めることは出来ない。七〇年代中期階級闘争の大高揚に敵対するものは必ずや敗北する。田中も倒れ、朴、フォードの命脈はつききている。われわれは更に階級の団結を打ち固め、全ての被抑圧民族・人民と共同して、日本帝国主義の「韓」国・アジア侵略反革命と人民分断支配に真っ向から対決し、日本帝国主義の打倒に向ってつき進まなければならぬ。そしてかかる闘いの前に私たちはだかり、帝国主義者に味方する社共人民戦線派、カクマル、足立商會派等純プロ主義者の壁を突破して進撃するであろう。

全ての革命的同志諸君！労働者人民諸君！
この一年間の政治的、思想的、組織的成果をはっきりと対象化し、七〇年代中期階級闘争の大高揚を峰起し内戦に転化する中核として自らを打ち固めよう！

部落大衆との結合をもとめて立ち上がり、日帝寺尾を打倒するばかりではなく、日本帝国主義の侵略反革命体制の基本政策である差別、抑圧、人民分断政策を粉々に打ち砕かんばかりの大高揚を実現したが故に、それに対する一大政治挑戦であり、石川氏のみならず、部落大衆、労働者人民に対する反人民的、反階級の報復としてあったということをはっきりと確認するのでなくてはならない。

われわれは石川氏を御両親のもとに、又部落大衆・人民のもとに奪還出来なかつたことを心の底から猛省し、石川氏、御両親、部落大衆の怒り、くやしさをわがものとして、決意を新たに、この反人民的、反階級の政治的挑戦を受けて立ち、正義の報復戦を貫徹し、屈辱の十・三一をはらすであろう。日本帝国主義の侵略反革命体制の基本政策である差別、抑圧、人民分断政策に真向から対決し、石川氏即時奪還、狭山闘争の歴史的勝利をなんとしても実現しなければならぬ。

このようなわれわれの新たな進撃に向けて、この一年間の闘いを振りかえり、教化する必要があるだろう。

差別裁判長井波の退官以降一年間の狭山闘争鎮静化攻撃の後、七三年十一月二十七日「民主的」な装いをまといて寺尾が登場し再

開公判が開始された。権力はこの一年間の空白期間の間になんと狭山闘争の鎮静化を図ろうとしたが、石川氏と闘う部落大衆はこの反革命的な攻撃をものみごとに粉砕して十一・二七一万五千名もの結集をもって雄々しく闘い抜いたのである。しかも権力に決定的な打撃を与えたのは、部落大衆と部落解放同盟の不屈の闘い、それと固く連帯する革命的左翼の闘いに触発された圧倒的な労働者人民が決起したことであろう。狭山差別裁判を通じて部落民に更なる差別・抑圧を強い、労働者人民との分断支配を目論んでいたにもかかわらず、逆に、分断、対立させようとした部落民と労働者人民が手を結んでしまったことは、なによりも日帝寺尾を恐怖させたにちがいない。だからこそ、「民主的」なベールをかぶって登場した寺尾は、融和主義の役割りを他に担わせ、自らは反革命・差別者としての素顔を露骨にあらわしたのだ。高裁と日比谷公園の回りを圧倒的な機動隊、装甲車で固め、闘争参加者に対して一人一人身体検査をしたり、暴行を加えるといった、まさに戒厳令ともいえる弾圧体制をしき、なんとか狭山闘争の高揚をおし止め、圧殺しようとしたのである。

以後日本帝国主義の走狗寺尾は反革命、差

別性を全面化させ、三月二十二日には冒険的
な挑戦を試した。いわゆる三・二二暴挙といわ
れる許すべからざる攻撃である。それは、石
川氏の無実を証明する証拠と、狭山裁判とそ
れを強行する日帝寺尾の差別性を暴露する
証人の弁護側申請を全面的に却下し、既に破
綻に追い込まれている権力のデッチ上げ犯罪
をなんとか陰蔽して、高揚しつつある狭山闘
争、そして部落大衆と労働者人民の共同闘争
による闘いの全人民的政治闘争化を圧殺しよ
うとする徹頭徹尾反革命的、差別的な攻撃で
あった。

石川氏は獄中から三・二二暴挙を糾弾し、
これに大逆襲せよとアピールを發した。われ
われは石川氏の十二年間の不屈の獄中闘争
日常的に権力に監禁され、弾圧されながらも
なお闘い続けるという敢闘精神に深く教えら
れ、三・二二暴挙を許してしまつたわれわれ
の不充性を自己批判し、これを契機に、自ら
の闘いの歴史性と、その中で貫かれた思想性
の不充性を徹底的に切開するという作業に
入っていったのである。

自らが被支配者階級でありながら、そうで
あるが故に課せられる苦しみに対する怒りを
権力に対して向けこれを倒すのではなく、常
に階級社会の最下層に存在させられてきた部
落大衆に向け、差別、抑圧を続けることによ
って被支配者階級としての実存に甘んじてき
た過去四〇〇年の歴史を痛苦に把え返し、徹
底して猛省しなければならぬこと、そして
そのような内実を思想的立脚点とする猛省精
神をもって現実の帝国主義的実存を根底から
否定する必要があること、即ち、現実には部
落大衆を始めとする全ての被抑圧民族・人民に
かけられた攻撃を自らにかけられたものとし
て受けとめ、被抑圧民族・人民が被っている
血の犠牲に対して血債を償還するものとして
わが肉体を弾として敵権力の攻撃に対して闘
い抜いていかなければならぬということをつ
かみとったのである。

このようにして思想的深化を克ち取りつつ
三・二二暴挙に対する反撃を組織し、五月二
三日二万五千人という十一・二七を倍する人
民の決起をもって日帝寺尾に対する大逆襲
を成功させた。闘いは着実に前進し、部落大
衆と労働者人民の連帯はますます拡大強化発
展をとげてきた。日帝寺尾はこれ以上追
いつめられてはたまたまないとばかり、弁護側要
求の現地調査を拒否し、事実審理打ち切りを
宣言して実質上の結審を行ったのである。

かくの如くして日帝寺尾はどたん場まで
追いつめられ、九・十月連続公判を設定し、
狭山闘争を軸として形成されてきた、部落大
衆、労働者人民と日本帝国主義との一大階級
攻防戦に結着をつけんとしてきた。

われわれはこの挑戦を九・十月決戦として
がっちり受けとめ、これ以降まさしく死闘
の四ヶ月として進撃を開始した。獄中の石川
氏はこの決戦は自らの生命のみならず三百万
部落大衆の命運をかけたものであり、日本革
命の水路を切り開くものである以上、日帝
寺尾とさしちがえても闘うと檄を發したので
ある。この石川氏の不屈の闘魂に学ばずして
どのような闘いが出来るだろうか。石川氏の
血叫びにたとえても応えなければならぬ。
われわれはただちに戦闘態勢に入り、
「日帝寺尾決死糾弾、石川氏実力奪還・狭
山九月決戦絶対勝利」の旗も高々と、高裁前
での攻防戦と相呼応して狭山現地において八

月三十一日より一ヶ月間の決死ハンスト戦に
突入した。

日帝寺尾も必死である。日本帝国主義の
侵略反革命体制の基本政策である差別、抑圧
人民分断政策がいまや粉砕されんとしており
体制的危機の延命をかけて、石川氏、部落大
衆、労働者人民、そしてその最先頭で闘わん
とする戦旗派と全国労共闘に対して絶望的な
反革命攻撃をかけてきたのだ。とりわけ狭山
現地においてわれわれの決死ハンスト戦に対
する石川氏不当デッチ上げ逮捕の張本人狭山
署を先頭とする西武鉄道入間川駅、狭山市当
局の連合した密集せる反革命が形成され、機
動隊を使っての暴力的攻撃を行ってきた。

わが戦旗派と全国労共闘はかかる日帝寺
尾の意を受けた反革命連合の敵対を激闘につ
ぐ激闘で撃破し、一ヶ月間の決死ハンスト戦
を断乎として貫徹、日帝寺尾に痛打をあび
せた。他方高裁前の闘いは、九月三日三万
人、五日、十日、二十日、二十四日と連続一
万人以上、二十六日にはついに十二万人の部
落大衆・人民が決起し、九月決戦全体で延べ
二十万人の人民が結集して、法廷内の石川氏
とともに、糾弾・奪還・打倒の旗の下、日本
帝国主義の差別・抑圧、人民分断政策を大破
綻に追い込み、部落完全解放、日帝打倒のま
さしく七〇年代中期階級闘争の大爆発、日本
革命への大水路を切り開いたのである。

二十六日弁護側最終弁護、石川氏意見陳述
に対して検察側はたった十分間の論告しか出
来ず、しかも石川氏の正当な「無実・差別」
の主張、糾弾に一言も反論することが出来な
いことにも示された如く、石川氏の逮捕が不
当なデッチ上げ犯罪であり、狭山差別裁判が
徹頭徹尾差別的なものでしかなかったことを、
人民の全人民的、階級的な闘いの前に自己暴
露したのである。

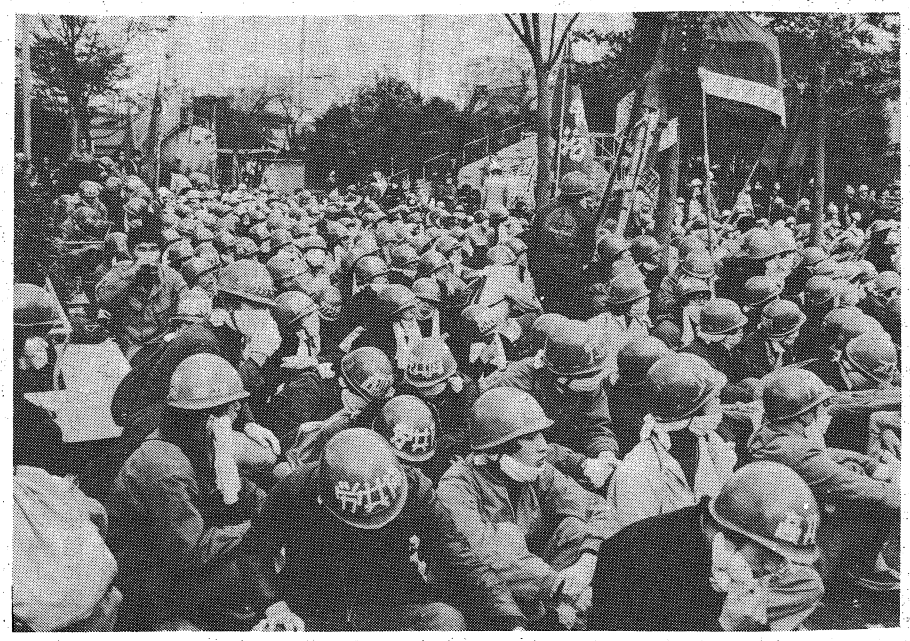
そうであるが故に十月三十一日日本帝国主
義は、その体制的、階級的重みをかけて大反
撃をかけてきた。即ち日帝寺尾による反革
命的、差別的、暗黒無期懲役判決攻撃がそう

である。これは実質上、死刑判決と同等であ
り、全くもって許すことの出来ない大暴虐で
ある。自らのデッチ上げ権力犯罪、十二年間
にわたる狭山差別裁判の強行を全て陰蔽して
居直り、石川氏の革命戦士への成長、部落大
衆、労働者人民の団結が、部落完全解放、
日帝打倒を目指すものへと発展し、その為
に狭山闘争が全人民的政治闘争として大爆発し
たことに対する反階級的、政治的挑戦であつ
たということをはっきりと見抜くのでなくて
はならない。

われわれはこの一年間の狭山闘争をふり返
って二つのことを教訓化する必要がある。第
一は、石川氏が十二年間の不屈の獄中闘争を
貫徹し、その中であくなき闘魂を燃やし続け
自らを革命戦士への形成していったことを徹
底的に学び切らなくてはならない。そして四
〇〇年間もの間部落大衆を差別、抑圧し続け
てきた思想的、実践的不充性を根底から猛
省し、血債・猛省精神を更につちかひ、部落
大衆を始めとする被抑圧民族・人民の利害を
守り切ることを自らの課題として帝国主義国
家権力と肉弾をもって闘い抜くことである。

第二は、狭山差別裁判糾弾闘争が九・十月決
戦を頂点として全人民的政治闘争として発展
し、日本帝国主義の差別、分断支配政策に大
打撃を与え、それに対する報復として反階級
的、政治的挑戦をひき出した以上、われわれ
闘う主体は、階級的な武装を克ち取り、戦略
的総路線の下に団結して日本帝国主義のアジ
ア侵略反革命と侵略反革命体制を粉砕する闘
いとして狭山闘争を位置づけて闘うのでない
限り、決して勝利を克ちとることは出来ない。
なによりもそのなかで、労働者人民は、石川
氏、部落大衆と更に強固に連帯して革命的な
共同戦線を構築する必要があるということであ
る。

以上二つの教訓を血肉化し、屈辱の十・三
一を忘れず報復戦を開始しよう。「十・三一
大暴虐決死糾弾、無期判決粉砕、石川氏即時
奪還」を目指し断乎闘い抜け!



仲蒲田公園を埋めた全国労共闘の大部隊

三里塚空港粉砕・岩山大鉄塔死守の戦闘態勢打ち固め、日帝のアジア侵略反革命を粉砕せよ

われわれは今年二月二十三日全国労共闘主催の春闘総決起集会に三里塚・芝山連合空港反対同盟委員長戸村一作氏をむかえ、革命的労働者の重要な課題として「三里塚空港粉砕、岩山大鉄塔死守」の闘いをすえ切ることを意志統一し、狭山、朝鮮の課題とともに一貫して闘い抜いてきた。その闘いの頂点として今秋期十・十現地闘争への圧倒的決起を実現してきたのである。

十・十現地闘争は反対同盟を中心として五千名もの労働者、学生、市民が結集し、断乎とした実力闘争として闘われた。かかる現地実力闘争の大爆発は政府・公団の今秋、鉄塔撤去、空港開港策動をもののみごとく破産させ、日帝のアジア侵略反革命に大打撃を与えているのである。即ち、三里塚空港を開港出来ぬが故に羽田空港はパンクし、各国の空港から日航機の離着陸が拒否されるという事態をもたらしに示されている。

そうであるが故に政府・公団はなんとしてでも三里塚空港を侵略反革命拠点として打ち固め、開港を強行しなければならぬと同時に、三里塚農民の持続した不屈の闘いに連帯する圧倒的な労働者人民の決起を、まさしく反革命的に圧殺せんとしているのである。われわれは今こそ三里塚農民の不屈の農民魂に学び、敵権力のアジア侵略反革命にかけた、労働者人民に対する反革命的敵対をぶち破り、日本帝国主義の打倒へむかうのでなければならぬ。

三里塚闘争は不滅であり、学生と農民の闘いから労働者人民すべての圧倒的総決起へと闘いは拡大しており、われわれはこの一年間の成果を打ち固め、更に労働者・農民の革命的な団結をもって三里塚闘争の歴史的勝利を実現するのだからなければならない。

十・十現地闘争への労働者人民の圧倒的結集をもたらし、この反対同盟の十年間に及ぶ不屈の闘いであると同時に「空港粉砕・鉄塔死守」「安保粉砕・日帝打倒」を掲げて闘われた戸村参院選闘争に他ならない。われわれは「戸村一作氏と三里塚闘争に連帯する会」に結集し、反対同盟と固く連帯して全国に於いて断乎として闘い抜いた。

もとよりブルジョア議会制度に対する幻想を抱いたり、当選を自己目的化したわけでは断じてなく、この選挙闘争を通じて、①三里塚闘争の全国化、②全国農民・住民運動と革命的労働者の闘いの結合、③日本帝国主義の攻撃の全面的政治暴露とブルジョア議会制度の反動性、それに屈服している社共を始めとした既成左翼の犯罪性の批判、④「空港粉砕・鉄塔死守」「安保粉砕・日帝打倒」を旗印とした戦闘的人民の大結集、を目指したのである。

半年にも及ぶ連続的な激闘の末克ち取られた成果は、全国を貫き、各地に「連帯する会」が結成されたというところであり、そのことによって三里塚農民を先頭とする、全国の農民、労働者、住民が結合し、とりもなおさず三里塚闘争が全国へと浸透していったのである。現象的には二十三万票の得票として表現さ

れたわけだが、これはあくまでも「連帯する会」に結集し三里塚闘争に決起するという決意を固めた闘争主体を基礎としており、戸村氏が当選するに至らなかったから敗北だなどと決して言えない。むしろ二十万人の人民が三里塚闘争支持に止まらない「安保粉砕・日帝打倒」の闘いに決起するという意志を表明したものに他ならず日本帝国主義者を恐怖のどん底にたたき込む程の成果だということを確認するのだからなければならない。

現に選挙以降も「連帯する会」は全国各地に残り、三里塚闘争を始めとしたあらゆる政治闘争に決起しつつあり、十・十現地闘争への五千名もの決起もまたそのことを示してあまりある。

わが戦旗派と全国労共闘は現地において反対同盟との日常的結合が実現し得ていないという不充足性をのり越え、この一年間の三里塚闘争をかんざく半年間の戸村参院選闘争から十・十現地闘争を持てる力量の総力を挙げて闘い抜いた。このような激闘の中でつかみとった教訓は、第一に三里塚反対同盟が十年間の不屈の闘いを続け、あらゆる武器を駆使して闘い、如何なる場所をも戦場と化し日帝に痛打をあげており、われわれも又このような反対同盟の闘いに学びあらゆる闘争の形態を通じて日帝を打倒していく革命勢力を組織してゆかねばならないことである。

第二に、三里塚反対同盟とともに労働者人民が圧倒的に決起し、この一年間の闘いによって政府・空港公団を追いつめ、「来年五月まで開港は無理」といわしめているわけだが、政府・公団はかかる大破綻をとりつくりいアジア侵略反革命の拠点を建設すべく攻撃をかけてくるに違いない。しかし、今となっては日帝にとって、三里塚空港が開港出来るかどうかなど問題ではないのだ。三里塚闘争を通じて戦闘的農民と労働者人民が共同戦線を構築し、日帝の体制的危機を作り出していることこそ脅威なのであり、権力の面子にかけてこれを圧殺する以外に彼らの選道はない。この事をはっきりと見抜きわれわれも又戦闘的武装を克ち取り、日帝のアジア侵略反革命反革命破防弾圧体制を粉砕し日帝を打倒するといふ展望の下に「空港粉砕・鉄塔死守」戦を闘い、ますます敵権力をどろ沼の中にひきずり込み撃滅する必要があるのである。

韓国民衆、在日朝鮮人民の死闘に応え、全韓国の「馬山化」を断乎阻止せよ

韓国民衆は昨年十月二日ソウル大生の決起を突破口として、日帝・朴の反革命弾圧体制をぶち破り、反朴反日闘争に立ち上がった。朴は大統領緊急措置令等を打ち出し、金芝河氏ら愛国人士を大量に不当逮捕、弾圧したが、韓国民衆は如何なる弾圧にも屈せず、学生、キリスト者、言論人等が「つぎつぎと立ち上がり闘い抜いてきた。八・一五朴狙撃事件を利用して朴は反共運動を組織し、韓国民衆の朴

日帝に対する怒りを朝鮮民主主義人民共和国や在日朝鮮人総連合会、韓青同、韓民統にむけようと図ったが、人民は蔚山の現代造船所二千名の労働者の反朴反日暴動として自らの意志を表明したのである。それ以来言論人は「自由言論実践宣言」を発して闘いに突入

し、知識人もこれに続いた。フォード訪「韓」の前日政治犯の家族は米大使館に突入し「政治犯即時釈放」「フォードは朴を支持するな」と要求し、フォード訪「韓」阻止闘争に決起したのである。

われわれはかかる韓国民衆、朝鮮人民の英雄的な決死的闘いに絶対的に応えるべく、十一月十八日フォード来日阻止闘争を文字通り血債猛省をかけて闘い抜いた。朝鮮人民の反朴反日闘争の圧殺、朴反革命カイライ政権へのテコ入れ、日帝の韓国侵略反革命・全韓国の「馬山化」、日米安保・共同反革命体制の再編強化、このようなフォード・田中の反革命「宗主」会談を許すことが出来ようか。十七日、十一月フォード来日訪「韓」阻止全国実行委員会三七〇〇名の結集で前段闘争を闘い、十八日二千名で現地闘争に決起し、戦旗派、全国労共闘は三〇〇〇の隊列でその最先頭に立ち、ぶあつい機動隊の壁に何度も何度も肉弾をもってぶち当たり、羽田への突破口を切り開き進撃したのである。二十一日京都での訪「韓」阻止闘争にも関西の部隊を中心に決起し最後まで闘い抜いた。

結果としてフォードの来日訪「韓」を許しってしまったが、この六日間闘争は日本階級闘争の中に六七年十・八羽田闘争、七二年五・一三神田遊撃戦におけるプロレタリア国際主義の革命的伝統を復活せしめ、朝鮮人民、アジア人民の闘いとがっちり結合し得たといえるだろう。又六日間闘争を貫徹した全国実行委の登場（十七日三七〇〇名、十八日二〇〇〇名、二十一日二〇〇〇名、二十二日一五〇〇名）は、社共の排外主義と訣別し、朝鮮人民と連帯する戦闘的労働者人民の強固な隊列が日本階級闘争の混乱と分散化を打ち破って形成されたという画期的な意義を有している。

このような国際主義的潮流の登場と、朝鮮人民の決死的闘いに応える戦闘的な闘いは、日米「韓」反革命支配者共、とりわけ日本帝国主義を震かんせしめ、決定的に追い込んでいった。日本にきたフォードが十六万人の機動隊に守られ、人民の前に一切登場することが出来なかつたという事実、田中内閣がフォード離日後崩壊せざるを得なかつたということ、又「韓」国でも「甲号非常戒厳令」体制をとらざるを得なかつたこと、以上のことにはっきりと示されている。如何に反革命「宗主」会談をもって日米安保・共同反革命体制の破綻をとりつくり、日帝の韓国侵略反革命を策し、朴反革命カイライ政権へのテコ入れを願望しようとも、もはや、日本労働者人民、朝鮮人民、ベトナム・アジア人民の解放闘争を押し止めることは出来ないのだ。あがけばあがく程、帝国主義者共はどろ沼に入り込み、結局打倒されざるを得ないのである。

われわれは十一月・六日間闘争の革命的地平を堅持し、血債、猛省精神、ブンド魂を更に發揮して日本労働者階級人民を社共等の排外主義のくびきからとき放ち、朝鮮、アジア人民と真に連帯して日帝の侵略反革命と対決して蜂起・内戦の大道へつき進んでいかなければならないのである。

われわれはフォード来日訪「韓」阻止闘争の中で朝鮮人民との国際主義的団結を闘い、る為に充分でないといえ、四・一九学生革命連帯闘争、九・一九闘争、十・二ソウル大生決起一周年闘争、十・二六韓国民衆の反朴

反日闘争と連帯する労働者集会を闘い抜き、自らの思想性を打ち固めてきた。

これらの闘いの中で克ち取られてきた成果をもって朝鮮人民と連帯する闘いを更に前進させてゆくのではないか。被抑圧民族、朝鮮人民に対する血債。猛省精神を徹底的に深め、全国実行委として結実した共同闘争を進展させ、日本労働階級人民の圧倒的決起を実現しようではないか。そして朝鮮人民が日帝の侵略反革命を粉砕し、朴を打倒して、南北統一朝鮮解放を実現する時、われわれも又日本帝国主義のアジア侵略反革命と侵略反革命体制を打破し、絶対に日本帝国主義を打倒すべく総決起して応えようではないか。

破綻にひんする日米「韓」反革命体制の再編を許さず、日帝のアジア侵略反革命、人民分断支配を粉砕せよ！

日米・米「韓」共同声明の反革命性を暴露し粉砕せよ！

以上明らかにしてきた如く、戦旗派と全国労共闘はこの一年間の闘いをもって狭山・朝鮮・三里塚を軸に血債。猛省精神をつちかい、日帝の侵略反革命、腐朽性と対決し、階級的大高揚を切り開いてきた。更にここにおいてフォード来日訪「韓」によって出された日米・米「韓」共同声明の反革命性を暴き出すことを通じて、現在のな帝国主義者と反革命カライ共の動向を分析し、その中から狭山、朝鮮、三里塚、その他の課題における敵の攻撃をとらえ返し、日本帝国主義を打倒し得る戦略的方向を明確化しておく。

まず日米共同声明の注目すべき箇所を引用する。

①フォード大統領は……天皇。皇后両陛下と会見した。②相互協力及び安全保障条約下での日米間の協力関係は、アジアにおける国際情勢の進展の中において、重要な、かつ、永続する要素を構成しており、また、同地域での平和と安定を促進する上で効果的、かつ、有意義な役割を引き続き果たして行く。③平和目的の核エネルギーの一層の利用を容易にしつつ、……両国は、かかる努力においてあらゆる核兵器保有国が高度の責任を有することを強調し、核の脅威から核兵器非保有国を守ることに重要である。④日本と米国は、世界の資源のより効率的、かつ、合理的な利用と分配が必要である。……限りある燃料の利用にあたり節約を進めることに努める。両国は、消費国間の協力を進めることを重要視し、他の諸国と協調して生産国との間の調和のとれた関係を求めて行く。etcである。

次に米「韓」共同声明はどうか。

①両大統領は韓国軍および在韓米軍が常に侵略に対抗できる高度の力と即応性を維持しなくてはならないことと意見の一致を見た。フォード大統領は、韓国に対する武力攻撃を撃退するために米国が迅速、効果的な支援を与える決意であることを再確認した。同大統領は朴大統領に対し、米国は在韓米軍を現在の水準から削減する計画がないことを保証した。②両大統領は韓国近代化計画の進展状況を検討し、同計画の実施が韓国の安全と朝鮮半島の平和の為極めて重要であることに合意した。フォード大統領は韓国の防衛分担の幅が増大していることに留意し、韓国の防衛

産業を一層発展させるため、米国が適切な支援を続ける用意があることを確認した。

まずこの二つの声明に貫かれている日米両帝国主義の戦略は、ニクソン・グアムドクトリンを基本的に受けついでいるということである。それはベトナム革命戦争に敗退した米帝が、アジアから後退するに当ってチュウや朴などの反革命カライ政権に軍事、経済援助を強化することを通じて、「戦争のアジア人化」をはかり、更にアジア最「強」の日本帝国主義にこれら反革命カライ政権への反革命的援助を肩代りさせてゆくというものであった。

だがしかし、米帝が頼りとするチュウや朴等反革命カライ政権、日本帝国主義は、ベトナム、朝鮮人民を先頭とするアジア人民の反革命カライ政権打倒、反日米帝闘争の持続的、戦闘的展開によって徹底して追い詰められ、今や風前の灯なのである。例えばこの間の南ベトナム人民、言論人、宗教者、学生、労働者のゲバ棒や火炎ビンをもっての反チュウ実力闘争を見よ。十一月二十八日にはチュウの戒厳令体制にもかかわらず一万人の人民が街頭に出て、あるいは教会に立てこもり闘い抜いているではないか。又韓国民衆の反朴反日闘争は燎原の火の如く拡大している。十一月二十一日の政治犯家族達のフォード訪「韓」阻止米大使館突入闘争を見よ。その他にも今年一月田中東南アジア訪問時に起ったタイ、インドネシア等の反日暴動は日本帝国主義を根底的にゆさぶり続けている。

最後の頼みの綱であったニクソン・グアムドクトリンは実質的に粉砕され、破産した。そうであったとしても日米両帝国主義者にとつてその他の有効な延命の道がない以上、ますます泥沼に入り込んでいく以外途はないのであり、ニクソンドクトリンの破綻をとりつくろう以外ないのだ。従って二つの声明は、なんら目新しいものではなくニクソンドクトリンの破綻を陰蔽し、更に破綻の道へ転落してゆく為の単なる補修であり、非常に弱々しい、虚しい試みでしかない。

だからこそ敗北の道を転落しつつある自己のみじめな姿をさらさない為に、「現職大統領が始めて日本を訪問したことに意味がある」とかいつて強がりをしてみたり、体制的危機に陥っている日本帝国主義田中政権をカバする為、伝統的に取ってきた方法、天皇を前面に押し出して、高価な猿芝居「宮中での反人民的な莫大な金をかけた儀式をやってみたりしたのである。こんでフォード来日で特長的だったのは「声明」の①でも言及されているように天皇のクローズアップであり、このことは日本帝国主義の体制的危機をなによりも示している。まさに天皇をかつき上げることによって自民党政権の危機をなんとか延命させ、排外主義的国民統合をねらい、日帝のアジア侵略反革命へのテコとしようとしているのである。来年の天皇訪米の意図もかかるものとしてあるのだ。しかし、何處も何處もこのようなこけおどしが通用するものではない。天皇の「神通力」によりかかってしか日帝の延命がないとするならば、天皇もろとも日本帝国主義を打倒するだけである。

第二の特徴は、キッシンジャーが告白している「現代の安全保障は軍事的なものに限ることはできず、エネルギー、食糧の分野での日米協力が伝統的な軍事面の安全保障関係につけ加えるべき部分だ」ということであり、

帝国主義にとってエネルギー、食糧問題はもはや政治軍事問題と切り離して考えられないということなのだ。アラブ諸国が、イスラエルシオニストとそれを支援する米帝に対決する為石油を武器としたことが、帝国主義に打撃を与え、今後の帝国主義者の資源収奪の桎梏になってきたことを意味しているのである。「声明」④に、第三世界の資源収奪の野望を吐露し、その為に消費国「帝国主義の「団結」を固め、生産国「第三世界諸国の各個撃破を目論んでいることがあり」と読みとれる。

そして第三の特徴は、これももつとも重要な特徴であるのだが、日米での②と③に示されている内容であり、これは米「韓」④⑤との連関のもとに把握されねばならない。即ち日米②では日米安保体制がアジアの情勢の中で非常に重要であることを確認し、同時に③で明らかにされている如く、核保有国「米帝は核非保有国「日帝、その他を核の脅威から守る必要があることを確認することを通じて日帝の欺瞞的な「非核三原則」を否定し、安保体制の核武装化を迫認しているのである。しかも「アジア情勢」で日米帝にとって重要な問題は「韓」国朴政権の危機であり、何とかの危機をもたらししている朝鮮人民の闘いを圧殺すべく「韓国の安全保障と日本の安全保障との関連についても短いながら意見を交わした。われわれは米帝が韓国の安全保障が重要であることを述べ、韓国の国内体制がどうなれば好ましいかについても見解を明らかにした」(キッシンジャー発言)のだ。

米「韓」声明の①②では在「韓」米軍を削減せず、「韓」国に対する武装攻撃を撃退する為にはあらゆる支援を与えるといっており、更に「韓」国近代化と防衛産業の育成を明らかにしている。「韓」国近代化については日帝もかつての田中。ニクソン会談において約束しており、既に韓国に深く侵略反革命を強行している日帝は当然のこととして防衛産業の育成にとめているのであり、防衛産業にとってかくこの出来ない浦項製鉄所に多額の援助を与えていることは知られているとおりである。

まさに以上のとおり、日米、米「韓」共同声明は、ニクソンドクトリンを補修し、とりわけ朝鮮人民の英雄的で不屈の反朴、反日闘争によって危機に陥っている朴反革命カライ政権にテコ入れするといふまったく反革命的な意図をもったしるものであることが明らかなのである。

しかも第四に更に犯罪的なことは、日米両帝国主義が、朴にテコ入れし、そのこととはりもなおさず南北朝鮮分断の更なる固定化以外のなにものでもあり得ず、そのような策動を中々に追認させようとしていることである。ヘビブ次官補が「米帝が将来、北朝鮮に対し何らかの行動を起こすとしても、共産圏の主要国家が韓国に対して同じような行動をとることが必要だ」と述べていることにも示されるように米帝の共和国承認の代わりに中ソに「韓」国承認をせまることによって南北分断固定化と日米「韓」反革命体制の再編強化を認めさせようとしているのである。

まとめるとこの日米・米「韓」共同声明は、①破綻したニクソンドクトリン「日米「韓」反革命体制を再編強化して朝鮮人民の反朴反日闘争を圧殺せん」としていること。しかもそのような反革命的策動を中ソに認めさ

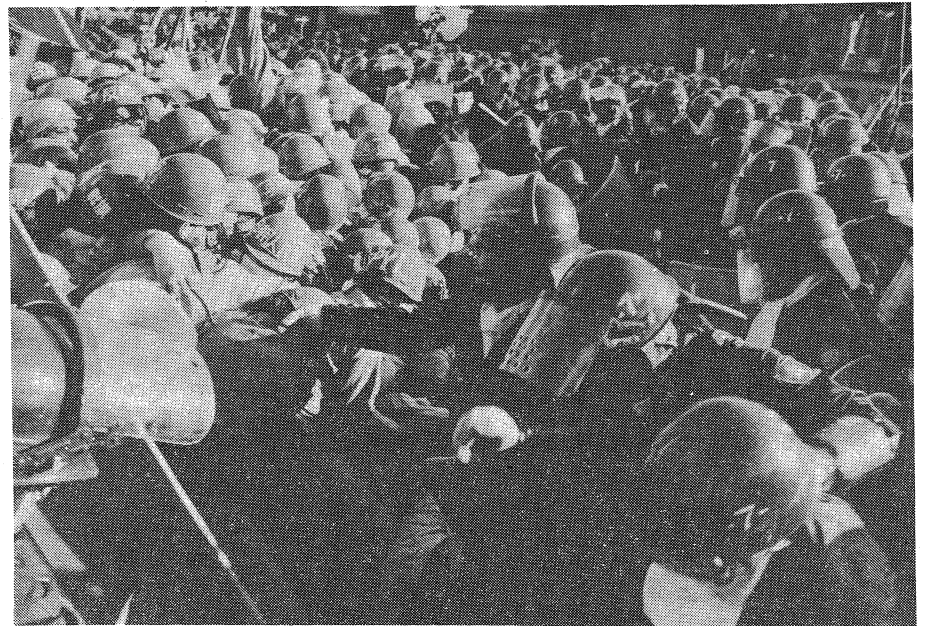
体制的危機を深める日本帝国主義のアジア侵略反革命と侵略反革命体制を断乎粉碎せよ!

韓国民衆の反朴反日闘争は、ベトナム人民の反テュー反米闘争や全世界被抑圧人民の反帝闘争にささえられ、又日本労働者階級人民の国際主義的な闘いにささえられ、破竹のいさおいで爆進している。だからこそ、日米「韓」共同声明によるニクソン・グアムドクトリンの手直し等なんの展望もないし、朴はますます危機を深める以外にない。日本帝国主義は、共同反革命のアジアに於ける盟主として肩代りをして以上、朴擁護にっぱしる以外なく絶望的な侵略反革命を強行する他ない。現に韓国の馬山を租界化しており、韓国民衆に耐えがたい苦痛を与えている。スト権、団交権を奪い、人間の権利をなく奪したった一万ウォンぼっちの給料で搾取。収奪しているのである。

日本帝国主義は、かかる韓国民衆、アジア人民隷属化の為に、被抑圧人民に日本人民を敵対させるべく、侵略反革命体制構築をねらっている。だがしかし、日本国内においても戦闘的労働者人民、農民、部落大衆、在日朝鮮人民、沖縄人民の闘いによって追いつめられ体制的危機を深めているのであり、このような人民の闘いの圧殺をおしてしか日帝の野望の達成はあり得ない。

まずは七月参院選と田中「金権」政治によって大混乱に陥っている自民党を延命させる為に小選挙区制の採用を論議、ブルジョア議会議案主義さえも否定して独裁への道をひた走り、ブルジョアジーに反対する如何なる部分をも圧殺する為に行政、司法権力を反動的に強化しつつ、刑法改悪、保安処分法の国会呈を画策しているのである。まさしく権力のファシズム的独裁体制を構築し、その下に国民の排外主義的統合をねらっている。天皇を持ち出して独裁体制の強化をはかりつつ、天皇崇拜を通じた排外主義イデオロギーの流布が基軸である。靖国神社法案強行採決や、「日の丸、君が代」の法制化策動もかかる策動の重要な一環として存在する。とりわけ排外主義的国民統合にとって必要なことは、被支配者階級の革命的団結を何んとしてでも阻止し人民の分断を図り、しかる後に帝国主義の思いがままに統合することなのである。従って部落大衆、朝鮮人民、沖縄人民に対する差別抑圧政策は帝国主義の生命線としてあり、十・三一大暴虐も、在日朝鮮人民への朴狙撃事件を契機とした政治弾圧、沖縄人民への海洋博を通じた抹殺攻撃もかかるものとしてあるのである。

日本帝国主義は又、労働者人民や農民に対



弾圧に屈せず再突入をはかる決死の闘い

しても露骨な攻撃をかけている。徹底した搾取、収奪、レイオフ、合理化、農民収奪である。ここで注意しなければならないのは労働者、農民への搾取、収奪の攻撃が強ければ強い程その苦しさを権力に向けてではなく被抑圧人民に対して転化し、権力の差別、抑圧に加担してゆくといった日本人民の伝統的偏向である。

全ての革命的同志諸君、労働者人民諸君、われわれが基軸的に闘ってきた狭山、朝鮮、三里塚の課題も明確に日帝のアジア侵略反革命と侵略反革命体制の攻撃に対して闘う課題としてあり、今後とも朝鮮人民や部落大衆、一切の被抑圧民族・人民と徹底的に連帯し、その利害を守り切るべく、日帝のアジア侵略反革命、侵略反革命体制粉碎を目指して闘い抜こう。狭山、三里塚、朝鮮の闘いをまさしくかかるものとして闘い抜こう。

かかる闘いを展望するに当って社共、カクマル、足立商會派等の反革命的、排外主義的純プロ主義的潮流との闘いは避けて通ることが出来ない。まさしく帝国主義との闘いの中に位置づけて闘うのでなければならぬ。

社共・カクマルは、狭山闘争の中で示されたように「有罪、非差別」の立場に立ち、日帝・寺尾の融和主義の手先になり、狭山闘争を分裂させ、あまつさえ、部落解放同盟や、革命的左翼への暴力的敵対、破壊策動さえ行ってきた。又朝鮮人民連帯闘争においては、「屈辱外交反対」を呼号し、日本帝国主義の侵略反革命に基づく大國主義、排外主義を擁護し、朝鮮人民に連帯するどころか敵対したのであり、このような帝国主義の手先になり下っている排外主義潮流をわが革命的闘いによって一掃してゆくのでなくては真の勝利はありえないのだ。

わが戦旗派から脱落した足立商會派も反革命カクマルと同列に転落した。十一月フォド来日訪「韓」阻止闘争六日間闘争を全国実行

委に結集して数十名の犠牲者を出しながら最先頭で闘い抜いたわれわれに対して十七日、解散地建設省跡地において足立商會派は背後からレンガ大の石を投げつけ、一人の革命的労働者に右足不随の重傷をおわせたのである。更に大鳥居駅においても、一人は権力に捕われながらも革命的に帰還を克ち取った数人の同志がわが部隊との合流を待っていた時、二十名でおそいかかりテロ・リンチを加え傷をおわせたのである。かかる行為が何を意味するのか、あの反革命カクマルは権力と闘って傷ついた革命的左翼を背後から襲撃して敵権力の手先になりはて、反革命のらく印をおされて、全く人民から見捨てられている。足立商會派の十七日の行為はまさにこの反革命カクマルの白色襲撃にまさるともおとらぬ反革命行為であり、断じて許すことは出来ない。われわれは報復の権利を留保していることを十七・十八闘争の全参加者の名においてここに明らかにしておく。

全ての革命的同志諸君、労働者人民諸君、「帝国主義の腐朽性に抗し、被抑圧民族・人民と連帯し、帝国主義の共同反革命を蜂起し内戦・世界革命戦争へ」の戦略的総路線の下、日本帝国主義のアジア侵略反革命、侵略反革命体制を粉碎せよ、朝鮮人民、部落大衆と三里塚農民と連帯し、狭山、朝鮮、三里塚の歴史的勝利を克ち取り日帝を打倒せよ、社共、カクマル、足立商會派の排外主義潮流を日本階級闘争から一掃せよ!

以上の総路線と展望の下、十二・一五労働政治集會に総力決起し、七十年代中期階級闘争の一大水路を切り拓け!

- ☆十・三一大暴虐糾弾!
- ☆フォード来日・訪「韓」弾劾!
- ☆三里塚岩山大鉄塔死守!
- ☆全国労働闘争の旗の下に結集し、日帝の侵略反革命を蜂起・内戦世界革命戦争へ!